

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲 7 2 8 - 1
自己評価作成日	平成26年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念である「ゆっくり楽しくいつも一緒に」を目標に入居者もスタッフもゆっくり座って過ごす時間を大切にしている。午前中はなるべく皆で一緒に過ごし、体操をしたり新聞を読んだりすることを日課としている。 主治医との連携がしっかりしており医療面では安心できていると思われる。全体的に介護度があがってきているが、なるべく長く入居していただけるよう医療との連携に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●6月の「家族交流会」時には、10名程のご家族が参加された。ご家族へは事前に「聞きたいこと」を知らせて、当日は「看取りについて」お話した。その後、食事会にてご家族同士が交流する機会が作られた。欠席したご家族には資料が送付された。法人で、ご家族等に対して、今年初めてサービス満足度アンケートが実施された。ご家族からは、「ケアプランの評価を伝えてほしい」「食事の味が落ちた」等の意見があったようだ。今後は、改善策をホーム内に掲示することになっている。月1回、ご家族には写真付きで手書きの便りを送付している。「健康状態」「活動状況」「その他」と分けて詳しく報告できるよう工夫されている。便りに利用者に必要なものを記すようにしており、ご家族が持参してくれている。ご家族が「着せてほしい」と洋服を持参された時等には、連絡ノートにて全職員に周知されている。 ●外出先の近くに利用者のご自宅があるような場合は、近くを通ってみたり、「自宅が見たい」という方には、お連れすることもある。新聞の記事に、利用者の地元のニュースがあれば伝えるようにしており、利用者の以前の暮らしぶり等を知る手がかりにもなっている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) きんかん

記入者(管理者)

氏 名 山崎奈美

評価完了日 H26 年 11 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 （外部評価のみ）
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念をつくり、目のつく所に掲示し、共有している。重度化が みられ、散歩や買い物の機会が減り、地域との関わりが減っ てきているが、全てのスタッフが「明るく・楽しく・いつも一緒 に」と心掛けている。	
			(外部評価) 事業所は、開設当初から「地域の中で、その人らしく暮らしな がら人間の尊厳を大切にしてい」「家庭的な雰囲気の中で ゆっくり楽しくいつも一緒にをモットーとして自立支援を行う」 と理念を掲げており、管理者、職員ともに、「ゆっくり、楽しく、 いつも一緒」という部分を特に大事にして、皆でゆっくり座っ て過ごす時間を持つ等されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 防災訓練や公民館等の地域行事に参加している。又地域の 方々が、来れるホームで夕涼み会を開催し交流を持つよう 努力している。しかし、日常的に交流出来ていないと考えて いる職員もいる。	
			(外部評価) 職員が外の掃除をしている時に、近所の方からみかんをもら うこともある。地区の婦人会からは利用者一人ひとりにお寿 司をいただくような機会もある。今年の敬老会は、地域の保 育園に依頼して園児に来てもらい、歌や踊りを見せてもらっ た。利用者は子ども達の様子を見て涙を流して喜ばれたよう で、12月のクリスマス会にも来てもらえるよう計画されていた。 中学校の職場体験を受け入れており、運動会には利用者も 応援に行っている。管理者は利用者の重度化のため、以前 に比べて利用者が地域の方と交流する機会が減ったと感じ ておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 福祉体験に来る中学生や、地域行事で交流した人々に、認 知症についての理解や支援方法を活かしている。地域の方 で、認知症を疑われる方の家族に受診や包括支援センター の利用をすすめた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 （外部評価のみ）
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営状況等報告し、意見交換したり、助言をもらったり している。出た意見はスタッフ会で報告し、共通するよう心掛けてい る。今年度は、避難訓練を見学して意見をもらったり、食事提供に ついて話したりしているが、助言というよりも、スタッフの大変さを感じ てもらったような様子であった。運営推進会議に参加するスタッフ は限られており、会議について理解出来ていないスタッフもいる。	
			(外部評価) 会議は、「気軽に参加してほしい」という思いで「ちょっと寄って話さ ん会」という名称にしている。会議には、家族代表2名、公民館長や 婦人会、市内の他グループホーム職員が参加されている。事業所 からは、状況や行事の報告を行い、「研修について」「安全対策に ついて」「事故報告について」「食事について」等、毎回テーマを決 めて事業所の取り組みを発表しており、出席する地域の他グルー プホームの取り組みや対応を聞く機会にもなっている。管理者は今 後、利用者も会議に参加できるよう、工夫したいと話しておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 市の担当の方々は、運営に協力的で相談、報告で受けとめ 助言頂けている。運営推進皆具に来て頂けたり、市内地域 密着型サービスの連絡会があったり、さわやか相談員が来 所されたり、交流が持てている。	
			(外部評価) 3ヶ月に一度の地域密着型サービス連絡会は、現在、研修が中心 となっており、市の担当者から「最近、誤薬事故が多いため、連絡 会で研修してはどうか」と提案してもらっている。昨年は、連絡会の 会長を事業所で務められた。月1回、さわやか相談員の訪問時に は、1時間程度利用者のお話を聴いてくれており、「窓が開いてい て寒い」「ご飯の味付けが良くない」といった声があったようだ。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 4月に勉強会を行い、具体的行為をみんなで確認した。玄 関は、日中施錠していない。センサーマットやタンバリン、鈴 等を利用して、入居者の動きに努め身体拘束せずに安全に 生活できるよう努力している。「待つて・ダメ」等言葉の拘束等 にはまだまだ気をつけていかないといけない。	
			(外部評価) 玄関、デッキ入口窓にも鍵を掛けず利用者が自由に出入り できるようにしている。利用者の行動を制限するような職員の 言葉かけが見られることもあるようだが、管理者は、「言わなく ていいような状況を作るために、その方に合わせたケアをプ ランに上げていきたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体拘束と共に、4月に勉強会を行った。言葉使いやちょっとした対応が、虐待と捉えかねない状況があり、それは施設全体の問題であると考え皆で注意していくこととした。入居者の身体に傷・痣があればヒヤリハットとして扱い、原因・対策を考え、皆で情報共有している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ここ2、3年学ぶ機会がなかった。制度や事業について知識のあるスタッフもいれば、理解出来ていないスタッフもいる状況である。今、活用の必要な方は、入居されていないが、知識だけでも今後、皆で活用してしていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長が行っている。契約は時間をかけ丁寧に説明し改定等も、文書できちんと説明している。問い合わせにも応じている。6月には、家族交流会として、家族と意見交換の場をもち、質問・要望等伺っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者からは、普段の生活の中で意見、要望が有れば聞くよう関わっている。毎月市からさわやか相談員が来て、意見交換をしている。家族からは、家族交流会、運営推進会議、意見箱の設置等で意見・要望を聞いている。来所時も積極的に話しかけるようにしたりしているが、それぞれの入居者の支援に関する要望や意見が多い。ホーム全体の事は、スタッフ会で共有し運営に活かしている。 (外部評価) 6月の「家族交流会」時には、10名程のご家族が参加された。ご家族へは事前に「聞きたいこと」を知らせて、当日は、「看取りについて」お話しした。その後、食事にてご家族同士が交流する機会が作られた。欠席したご家族には資料が送付された。法人で、ご家族等に対して、今年初めてサービス満足度アンケートが実施された。ご家族からは、「ケアプランの評価を伝えてほしい」「食事の味が落ちた」等の意見があったようだ。今後は、改善策をホーム内に掲示することになっている。月1回、ご家族には写真付きで手書きの便りを送付している。「健康状態」「活動状況」「その他」と分けて詳しく報告できるよう工夫されている。便りに利用者に必要なものを記すようにしており、ご家族が持参等してくれている。ご家族が「着せてほしい」と洋服を持参された時等には、連絡ノートにて全職員に周知されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、スタッフが集まりミーティングを行っている。出た意見は運営に反映させている。6月には朝食時間の変更を行ったが、皆の意見を取り入れ業務改善をしていった。又、法人への要望等も施設長を通し、上司に伝えている。 (外部評価) 法人の会議時は、現場の意見を挙げる機会となっており、自転車置き場の屋根の設置等が実現している。人事評価制度では各自が100項目の自己評価を行い、個人目標を立てている。管理者は、面談時に、良かった点、出来ていない点を伝えて話されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回、それぞれの目標を立てて面接を行う人事評価制度があり、給与に反映されている。登用規定もあり、資格取得も勧めている。年1回、異動希望調査も行われており、それで、スタッフの士気向上になっているかもしれない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 2ヶ月に1回、ホーム内で勉強会、又、年1回は業務研修として希望がする研修、もしくは力量に応じた研修に参加してもらっている。その他にも、希望があれば参加出来るよう、勤務の調整や、研修費の申請等行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業施設の運営推進会議や行事に参加し、交流したり、法人内施設では、相互研修も行っている。地域密着型サービス協会の相互研修にも、スタッフに参加している。法人内の施設長が集まる会議が月1回、スタッフ代表の接遇委員、介護手順書作成、安全対策委員と定期的に会議を開催している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に見学に来てもらったり、施設長が利用前の住まいを見学に行ったり、事前に関係作りを行い、不安や要望等、しっかり受けとめるようにしている。入居までは、施設長及び計画作成担当者が主に関わっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期は、施設長、計画作成担当者が主に話を聞いている。 じっくり時間をかけ関わるようにしている。スタッフも本人、家 族との会話を積極的に行い慣れてもらえるよう関係作りに取 り組んでいる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 現在、入居中の方はほとんどが、法人内の病院の医療情報課 の紹介で、グループホームの支援が必要な方が入居されて いる。今後、施設で入居者と決定するよう業務見直しが行わ れた所なので、他のサービスも考慮し対応していきたい。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 重度化し出来る事が減ってきているが、洗濯物や新聞た み、カレンダーの入れ替え等出来る事をして頂いている。ス タッフも衣替え、皆で会話したり、レクをしたり、スタッフとの関 係作り、入居者同士の関係作りも努力している。重度化し時 に、介護される一方と立場となっている事もあるかもしれな い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームの行事を、案内し参加してもらったり、受診介助をして もらったりしている。毎月の月間様子報告書や、電話連絡等 まめに、様子を知ってもらえるよう努めている。遠方で会いに なかなか来れなくても、電話等で心の支えになってもらっ たり、協力してもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 馴染みの知人や家族等といつでも面会、外出出来るよう にはしているが、重度化に伴い機会が減ってきている。外出レ クで、故郷を訪問したり、毎日皆で読む新聞の中で、地元記 事があれば取り上げて読む工夫をしている。しかし、個別対 応が難しくなっている。 (外部評価) 外出先の近くに利用者のご自宅があるような場合は、近くを 通ってみたり、「自宅が見たい」という方には、お連れすること もある。以前、利用者がよく出かけていた商店街の「八日市」 に買い物に出かけてみることもある。新聞の記事に、利用者 の地元のニュースがあれば伝えるようにしており、利用者の 以前の暮らしぶり等を知る手がかりにもなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性を考え、テーブル席を決めている。一緒に花札やボール遊び等レクを行い、関わりあえるようにしている。時には、スタッフが仲裁に入り、会話をすすめたり、重度化し自ら動きかけにくい方は、スタッフが積極的に関わりを支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 相談があれば応じていくつもりだが、契約終了後は関係が切れる事が多い。会えばその後の様子を聞く程度である。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを取ることを大切にし、希望・意向を聞いている。重度化し話すことが困難な場合、聞き方に工夫したり、表情から読み取り希望・意向の把握に努めている。 (外部評価) センター方式を利用し、3ヶ月に一度アセスメントを更新している。利用者には、昔の事をお聞きして、好きだったこと、したいこと等の把握に努めておられる。調査訪問時、入居間もない利用者の意向を探るため、職員は利用者とお話しながら、ご家族のことや入浴の習慣等について聞いておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のアセスメントシートを利用し、これまでの暮らしの把握に努めている。本人や家族・親戚からも、声掛けを聞いている。入居者の入れ替わりが少なく、より深く一人一人の把握が出来ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルや一日の様子を個別記録し、把握に努めている。午前中、体操やレク等皆で過ごす事で、有する力等、現状把握出来る事が多い。午後は休んでもらったり、思い思いに過ごしてもらう事が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			月1回ケアカンファレンスを行っている。本人・家族の意見の取り入れが不十分な時もあるが、スタッフ間で話し合い、本人に合った計画になる様に努力している。	
			(外部評価)	
			毎日の介護記録は、個々のケアプランを記して時系列の日課表内に組み込む等して、実践につながるよう工夫されている。支援したら○を付けてチェックしており、毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとのプラン見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の様子や気づき・発言等、介護記録に記入している・変わった様子があれば業務日誌にも記入し、情報を共有している。カンファレンス時にも様子を話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			散歩や買物等、利用者の要望に出来るだけ取り組む様に、話し合い対応しているが、日中業務で対応出来ない事もある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域との婦人会のボランティア、中学生や保育園の園児等、交流の機会を持っている。ホーム行事を手伝ってもらったり、公民館のバザーや中学生の運動外に参加したりした。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居の際に強い希望がなければ、提携している特定の内科を主治医にしてもらっている。主治医は現在週5日くらい来所され、様子を見てもらっている。入居者の訴えや様子は毎日FAXでも報告し、必要な医療を提供出来ている。整形外科や眼科にも通院介助する事がある。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としており、往診を受けている。協力医は、24時間対応可能で、急変時にも、医師と直接連絡が取れるようになっている。又、週5回来られるため、職員は医師と話がしやすくなり、心強さを感じておられた。又、看護師の訪問もあり、利用者の健康管理をしてくれている。必要時には、訪問歯科も利用されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週2回看護婦が訪問し、助言を受けている。保健管理についても相談し、指示を受けている。その内容は、主治医にもFAXで伝えるようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 病院によっては家族優先という事で、家族を通して治療方針や退院についての話が入っている事もあるが、連携看護師を通し、可能な限り、情報を入手出来るよう努力している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居の時点で終末期についての希望を聞いている。契約時にホームで出来る事も伝えている。なかなか重度化してからないと、具体的イメージの分からない本人・家族も多く、状態が変わる度報告し、段階的にDr、看護師にも関わってもらい話している。	
			(外部評価) 家族会時には、事業所で「看取りの流れ」の資料を作成し、他グループホームでの看取り事例等も交えながらお話をした。2年前に看取りについて意向をお聞きするアンケートを取った際には、「まだ分からない」という声が多かったようだが、管理者は、又、ご家族に意向をお聞きしたいと話しておられた。職員は、看取りについて外部研修を受講しており、事業所内で研修報告して情報共有されている。	現在、利用者の重度化が進んでおり、事業所の体制づくりを進めているところである。終末期のあり方については、利用者の希望等を探りながら、ご家族等とも話し合いを重ね、協力し合って取り組んでいかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 講習や研修に参加し、勉強はしているが、定期的には行えておらず、スタッフ全員が学ぶという事は出来ていない。誤嚥や異食等、事故には事故報告書に記入し、対応の見直しをしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害を想定した避難訓練を年2回行い、その際に地震・津波への対応等も話している。4月に運営推進会議で避難訓練を行い、区長さんや婦人会の方等にも見学してもらった。地区の防災訓練にも入居者と参加し、施設の存在をアピールしてきている。 (外部評価) 4月の火災訓練時では、実際に煙を焚いて避難訓練が実施された。消防署からは、利用者の抱え方を教えていただいた。10月の訓練では、過去の火災訓練を再度行ってみたが、前回の反省点の「ドアを閉める」「大きな声を出す」ということが十分には出来なかったようだ。地域の防災訓練に、職員・利用者各1名ずつ参加して、担架づくりや止血方法の確認をされた。事業所は「原子力災害対策重点区域」に立地しているため、避難計画を作成し、松山市に受け入れグループホームが確保されており、管理者が見学に行かれた。事業所では、利用者、職員のごはん、おかゆ、水を3日分備蓄しており、座布団で作った防災頭巾も準備されている。現在、車椅子を使用する利用者も多く、避難方法についても工夫が必要となっている。地域の方達とも協力し合いながら、安全を守れるような体制を今後もさらに作っていかれてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉使いやマナー等、勉強し気をつけてはいるが、まだ不十分。難聴の方に、大きな声で排泄の事を聞いたり、反応の少ない方に声掛けをせず車いすを動かしてしまったりと、気遣いが出来ていない事がある。気をつけているつもりでも、気分を損なわない言葉掛けは難しい事もある。 (外部評価) 職員は、方言等も交えて、「親しみやすい話し方」を心がけており、又、「みんなに平等に声をかける」ことに努めておられる。調査訪問時、職員は、介助前に必ず声かけをしたり、利用者が決めることができるよう、言葉をかけておられた。又、話題を挙げて、一人ひとりに意見を聞いているような場面も見られた。ホーム新聞に載せる利用者の写真は、ご家族に同意を得て使用されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来る様に声掛けしているが、自己決定出来ない方には、表情、様子で働きかけているものの、ややスタッフ本位の支援となっている所もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 （外部評価のみ）
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	（自己評価） 出来るだけ本人の希望、ペースに沿って支援しているが、希 望を訴える事が出来ない方も増え、ペースに合った支援が 出来ない事もある。はっきり意思表示出来る方には、好きな レクを選んでもらったり、好まれる番組を勧めたり、一方、重 度化している人は、出来るだけ本人が楽に過ごせるよう心掛 けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	（自己評価） 入浴、外出時、選ぶ事が出来る方は、選んでもらっている。 2ヶ月に1回出張美容サービスを受けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	（自己評価） 誕生日には好みのメニューを取り入れている。又、外出時 にはお弁当を食べている。利用者のADLの低下により、準備 や片付け等段々難しくなっている。豆の筋取りやお茶パック を入れ、お膳拭き等は手伝って頂いている。 （外部評価） 「職員が利用者とかかわりを増やす」という目的で、今年6 月から業者から食事が届くようになっており、1階ユニットは、 朝・夕食、2階ユニットは、夕食のみ利用している。事業所で 手作りする食事については、職員が月交代で担当して1ヶ月 分の献立を作成している。食材は、配達を利用している。昼 食前には、皆が揃ったことを確認して、利用者のお一人が 「いただきます」とあいさつして食事を始めていた。職員も介 助しながら、同じものを食べていた。10月には希望や体調を 見て数名の方で外食に出かけられ、いつも以上に食欲が増 した方もあったようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	（自己評価） 一定量水分補給出来る様に、水分摂取の少な目の方には、 声掛けやお茶以外のジュースや牛乳を勧めている。朝・夕 は、調理済みの物を導入し、栄養・バランス取れたものを提 供している。又、その人の状態に合わせた物を提供してい る。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	（自己評価） 毎食後口腔ケアを行っている。介助の方は口腔内を確認 し、自力で行える方は、声掛けしている。定期的に義歯洗浄 を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表を参考にしながら、定期的に誘導している。ADLが低下し、トイレで排泄出来る方が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			日々の介護記録の中の日課表には、あらかじめ、利用者別にトイレ誘導の時間を記しており、時間をみながら支援されている。トイレまでの移動に介助が必要な方も、なるべくご自分の力を使って移動してもらえよう支援されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			3日に1度程度入浴してもらっているが、希望に沿った入浴時間決定は難しい。入る順番は希望を聞いている。拒否ある場合は、時間をずらしたり、翌日に入浴してもらえる様に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			浴室の入り口や浴室内のスペースに制限があり、車いすを使用する利用者の支援が難しくなっている。浴槽で温まることができない方もあり、シャワーと足浴等で支援されている。「毎日入りたい」という利用者には、毎日支援していたが、入浴後にも「入浴したい」と言われるようになり、現在は数日ごとの支援となっている。利用者ごとに脱衣かごやシャンプー等を用意しており、調査訪問時には、脱衣所に暖房をかけて入浴の準備をされていた。	利用者が安全で気持ちよく入浴できるような設備整備をすすめてほしい。利用者の入浴についての希望等の把握に取り組み、家族会時に話し合う等しながら取り組まれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の情報は、すぐに取り出して見れるようファイルに保存している。変更・追加がある場合、業務日誌に記入し共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 何人かしかしないが、花札をしたり、パズルをしたり、歌の好きな方には一緒に歌ったりCDをかけたりしている。洗濯物たたみや新聞たたみ等、役割を持って生活してもらっている方もいる。重度化し、テラスで日向ぼっこや声掛けだけになってしまう方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 初詣やお花見、フェスティバル参加等の外出行事を行っているが、重度化してきて月1回の外出レクでドライブ、外出が難しくなっている。近くを散歩したり、家族が面会時に外出される方はいる。 (外部評価) 近所のドラッグストアに買い物に出かけたり、近所を散歩されている。月1～2回少人数で外出しており、春のお花見には、近所の公園に全員で出かけ、ミキサー食の方も事業所で準備して出かけられた。8月には、そうめん流し、11月には三間にドライブに出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者によってはお金を持ち自由に使っている人もいるが、自己管理出来ない方が多く、外出時欲しい物や、必要物品はホームで立替としている方が多い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から希望があれば電話をしたり、手紙を書いたり出来るようにしているが、家族と連絡出来る方は少ない。希望があれば、通話出来るよう介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節事に合わせて、飾り等入居者と一緒に作成している。室温・日の当たりかた等、調整し過ごせるよう心掛けている。共同空間で混乱している様子は見られない。	
			(外部評価) 中学校に隣接しており、事業所敷地内から生徒の活動の姿が見られる。調査訪問時には、玄関入口にポインセチアの造花を飾り、居間の壁面にはクリスマスの雰囲気を楽しめるよう飾られていた。温度湿度計を設置し、確認して加湿器を使っている。2階の居間は、天窓からの自然光が入り明るい。管理者は、今後は、玄関チャイムの音量を下げたり、トイレの呼び出し音が不快にならないように配慮したいと話しておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 室内の至る所に、椅子を設置している。ソファでゆっくり座りTVを見てもらったり、会話や花札と一緒に出来る入居者を、隣同士のテーブル席にしたり工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた筆筒・椅子等を持ち込んだり、家族の写真や、作品等部屋に飾ったりしている。本やお菓子や好みの物を、身近に置かれている入居者もいる。	
			(外部評価) 各部屋にベッドとタンスが備え付けてある。全居室、窓には障子を入れおり、障子越しにやわらかい光が入っていた。入口には短めの暖簾をかけている。ご家族の意向で健康のため、磁気入り敷パッドを使用している方もある。日本画を描いたり、折り鶴を折って自分で飾り付けしている居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・浴室は分かりやすいよう、表示し困惑しないようにしている。時計やカレンダーも目のつく所にかけている。部屋の中も、伝え歩きの方は、部屋中央にベットの置き、移動しやすいようにする等、一人一人安心安全を考え工夫している。	